

W41a **GLAST ガンマ線天文衛星の打ち上げ成功報告とLAT望遠鏡の性能**

大杉節、深澤泰司、水野恒史、片桐秀明、山崎了、高橋弘充(広島大学)、高橋忠幸、尾崎正伸、内山泰伸、佐藤理江、大野雅功(JAXA/ISAS)、河合誠之、片岡淳、中森健之(東京工業大学)、釜江常好、田島宏康(SLAC)、牧島一夫(東京大学)、杉崎睦(理研)、福井康雄(名古屋大学)

国際共同研究として10年近くを掛け、開発・製作して来た Gamma-ray Large Area Space Telescope (GLAST) ガンマ線天文衛星を、6月12日未明にケープカナベラルからNASAが打ち上げに成功し、現在高度565 km、inclination angle 25.8°の円軌道を周回中である。GLAST衛星は主としてGeV(10^9 eV)領域(20 MeV ~ 300 GeV)のガンマ線検出で全天のサーベイ観測をする。特別な事象を見つけた場合にはポインティング観測モードも可能な衛星である。この報告を行う頃には本格的な観測に入っている予定である。日本グループはGLAST衛星の主観測装置であるガンマ線望遠鏡 Large Area Telescope (LAT) を構成するシリコン・ストリップ検出器の開発・製造で貢献した。また、上空でのバックグラウンドである宇宙線イベントの推定にも貢献してきた。打ち上げ後には、何人かがSLACに滞在して衛星立ち上げおよびキャリブレーションにも参加している。本講演では、GLASTの初期運用の様子を報告するとともに、今後の衛星運用計画と観測計画に付いて紹介し、First Lightによる全天のガンマ線像を示す。